

230415 小山セミナー ミニ発表

研究背景

中国における社会課題解決に資する地域介入実践研究は、2010年代に入り徐々に活発となっている。そのうち、大半はアメリカのコミュニティ・オーガニゼーション（CO）研究者であるジャック・ロスマンが提唱されたコミュニティ・インターベンション理論を活用したうえで、コミュニティに存在するボランティア参加、待機児童、住宅問題、貧困、ホームレス、環境保全、社会的孤立などさまざまな社会課題を解決するために社会的介入プログラムという形式で行われている。しかしながら、社会課題に応じる地域介入実践の効果を評価する必要性が論じられているが、どのような方法で評価するのが妥当なのか、いわゆる評価方法論が未だに確立されていない状況にある。そのため、社会的介入プログラムの効果をシステムティックに検討できるプログラム評価の活用を視野に入れている。

ロスマンのコミュニティ・インターベンション理論（3つの実践モデル）（Rothman 2007:12）

1. 「プランニング / ポリシー」は、データ駆動型（Data-driven）アプローチである。データをはじめ経験的な事実によって明らかにされた真実が伝わるのが説得力となり、その結果、解決策を提案・実行することにつながるとしている。
2. 「コミュニティ・キャパシティ・ディベロップメント」は、問題の影響を受けている人々が知識やスキルを身につけることによって、彼ら自身の問題をよりよく理解し、問題を克服するために協働しようとするとき、最もよく変化を起こすことができると想定している。したがって、このアプローチは、戦術（tactic）へのコンセンサス、そして媒介や成果としての社会的連帯があることによって成立すると述べている。
3. 「ソーシャル・アドボカシー」は、問題を引き起こしたり問題の解決を阻害したり人々・制度に対しては、圧力を活用して活動を展開することが最善の方法とされている。

プログラム評価

プログラム評価とは、社会調査手法を活用し、社会的介入プログラムの有効性を体系的に調査するものである。その評価は、プログラムを取り巻く政策的・組織的な文脈を考慮して行われるもので、社会状況を改善するための社会的活動の情報源となるものである（Rossi et al. 2004: 29）。

問題意識

プログラムの改善に役立てる形成的評価と、アカウンタビリティの確保を目的とする総括的評価からなるプログラム評価を活用することで、社会課題解決に資する地域介入実践の効果を評価できるという仮説を立てる。それを検証するために、中国で実施する社会的介入プログラムを研究対象に、ニーズ評価やセオリー評価、プロセス評価、アウトカム評価、インパクト評価、効率性評価などのプログラム評価法を用いることで地域介入実践の効果を検討する。

研究意義

本研究の意義としては、プログラム評価の視点から社会課題解決に資する地域介入を具現化した社会的介入プログラムの介入効果を評価することにより、地域介入実践の持続可能な発展や地域福祉の増進に寄与することが考えられる。